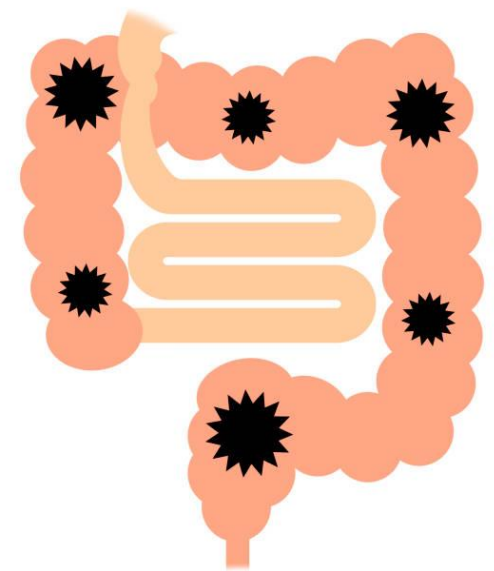


大腸癌の集学的治療 (外科医の立場から)



BLUE RIBBON CAMPAIGN

ブルーリボンキャンペーン

大腸がん疾患啓発活動 ～もっと知ってほしい大腸がんのこと～

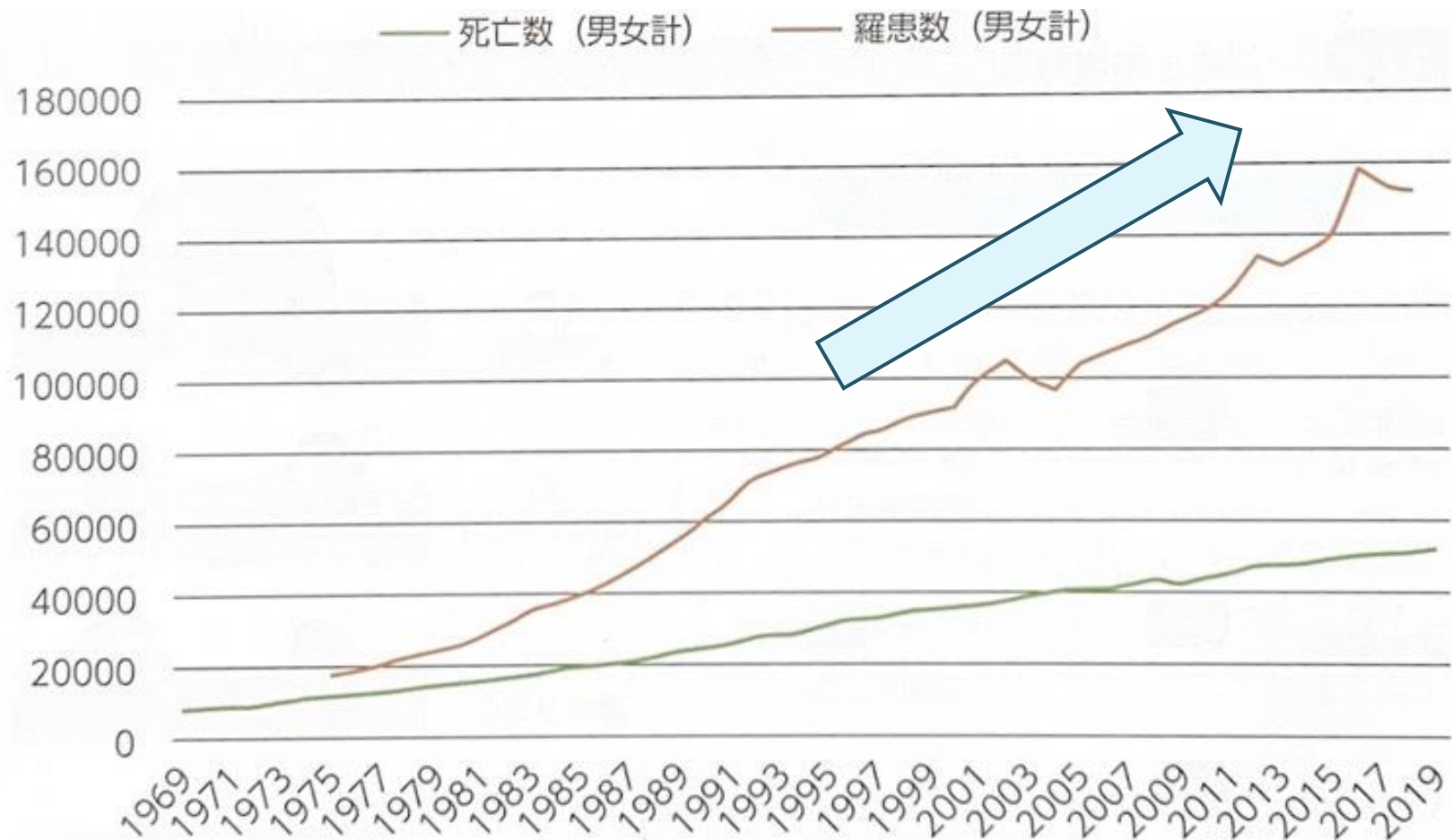


神奈川県立がんセンター 第13回市民公開講座 COI開示

筆頭発表者名：内山 護

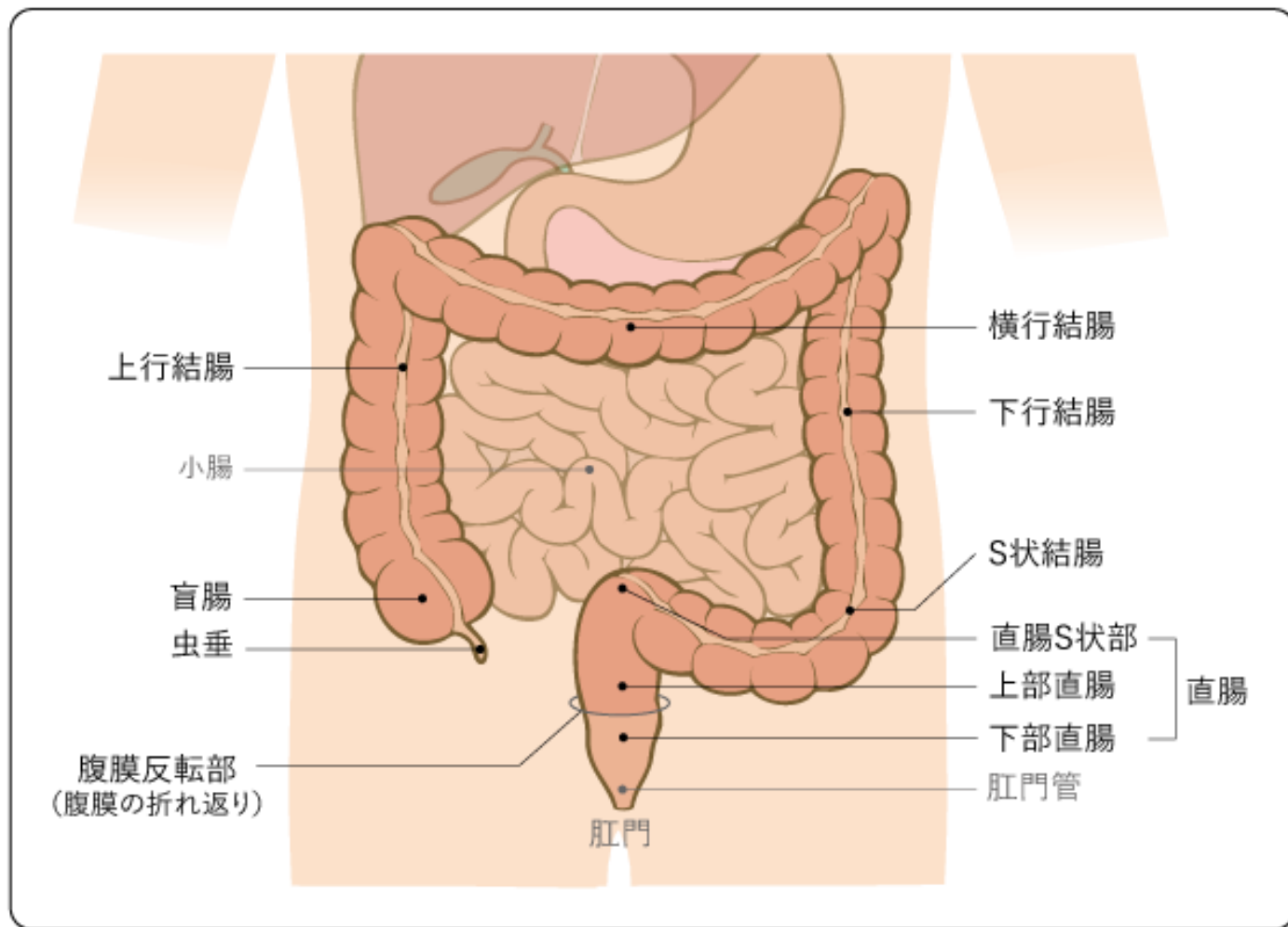
演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません

大腸がん罹患数

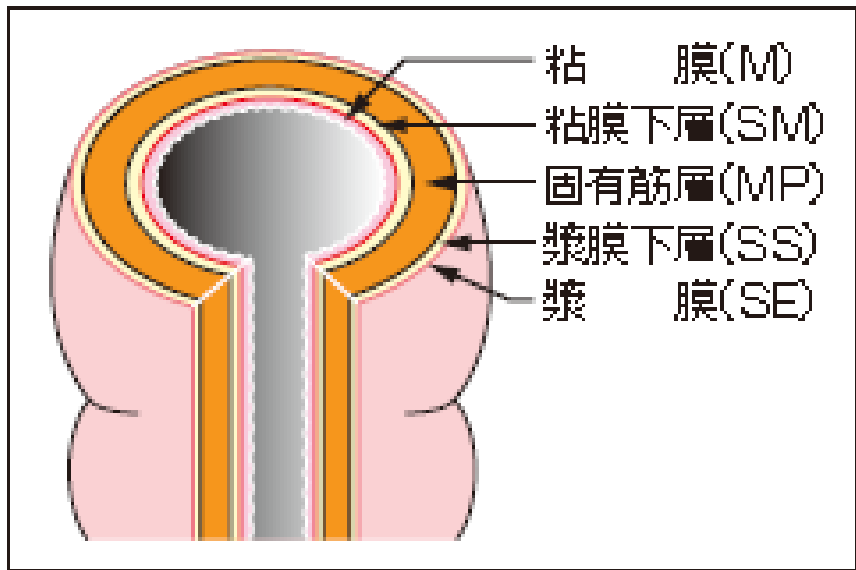


(国立がん研究センター：全国がん登録データ2019年)

大腸について



大腸癌とその治療方法



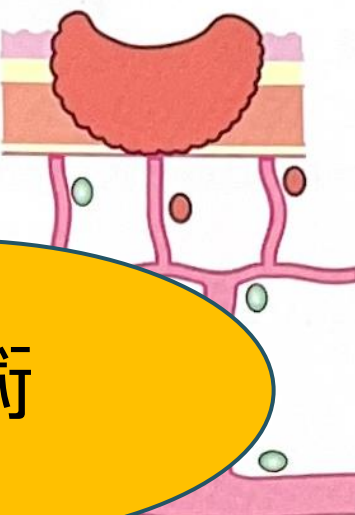
内視鏡(大腸カメラ)
治療

深達度による分類

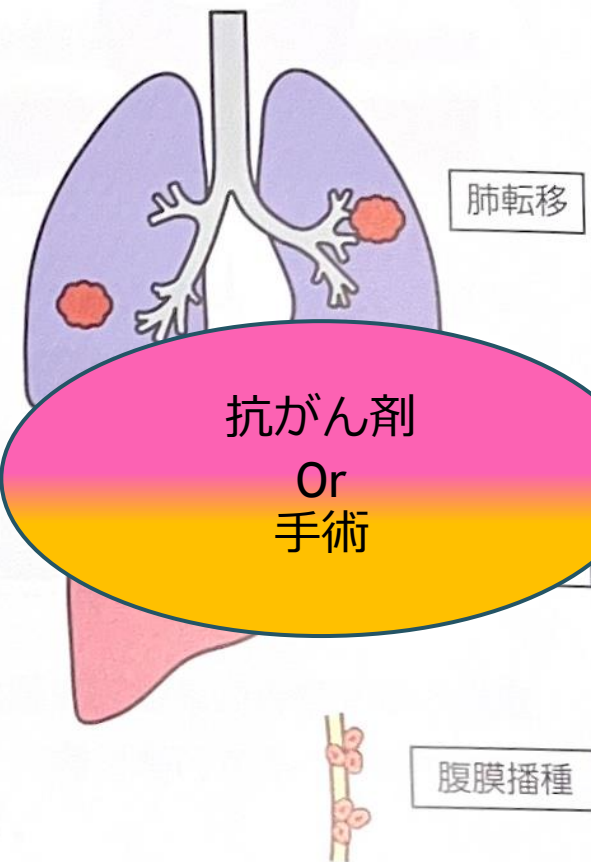


手術

リンパ節転移
による分類

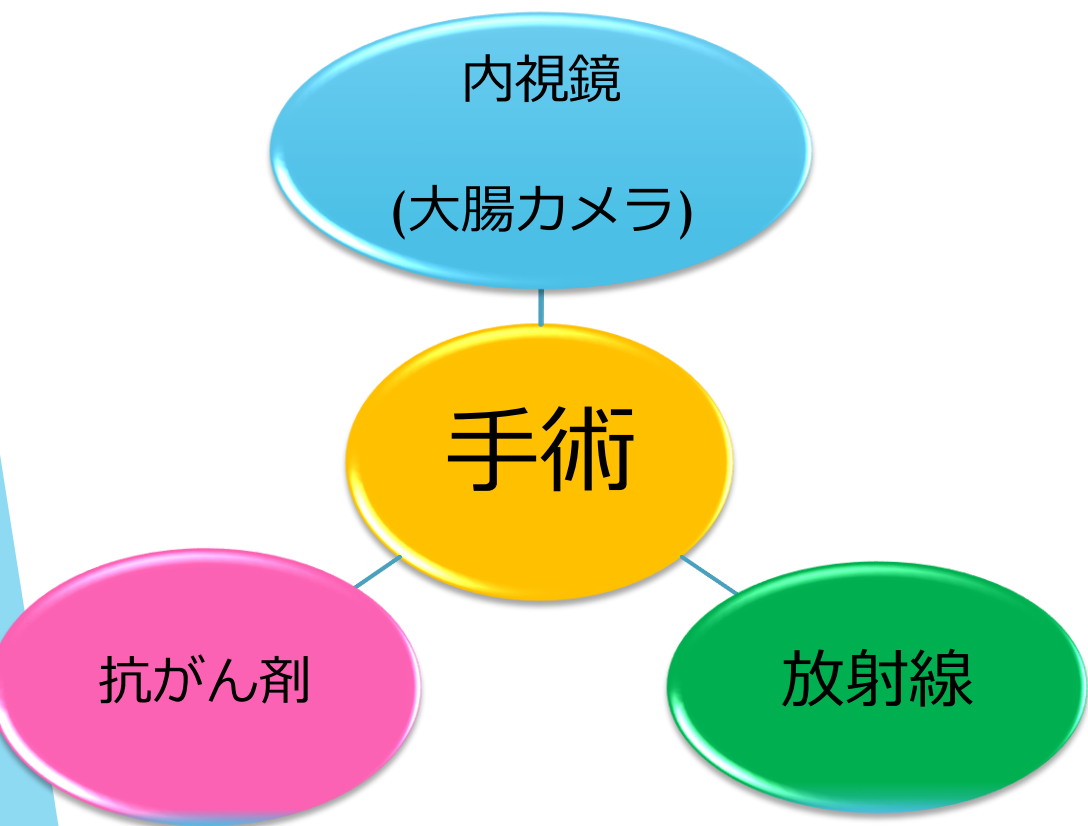


遠隔転移による分類



抗がん剤
Or
手術

大腸癌に対する集学的治療の例



★ 内視鏡(大腸カメラ) + 手術

★ 手術 + 抗がん剤

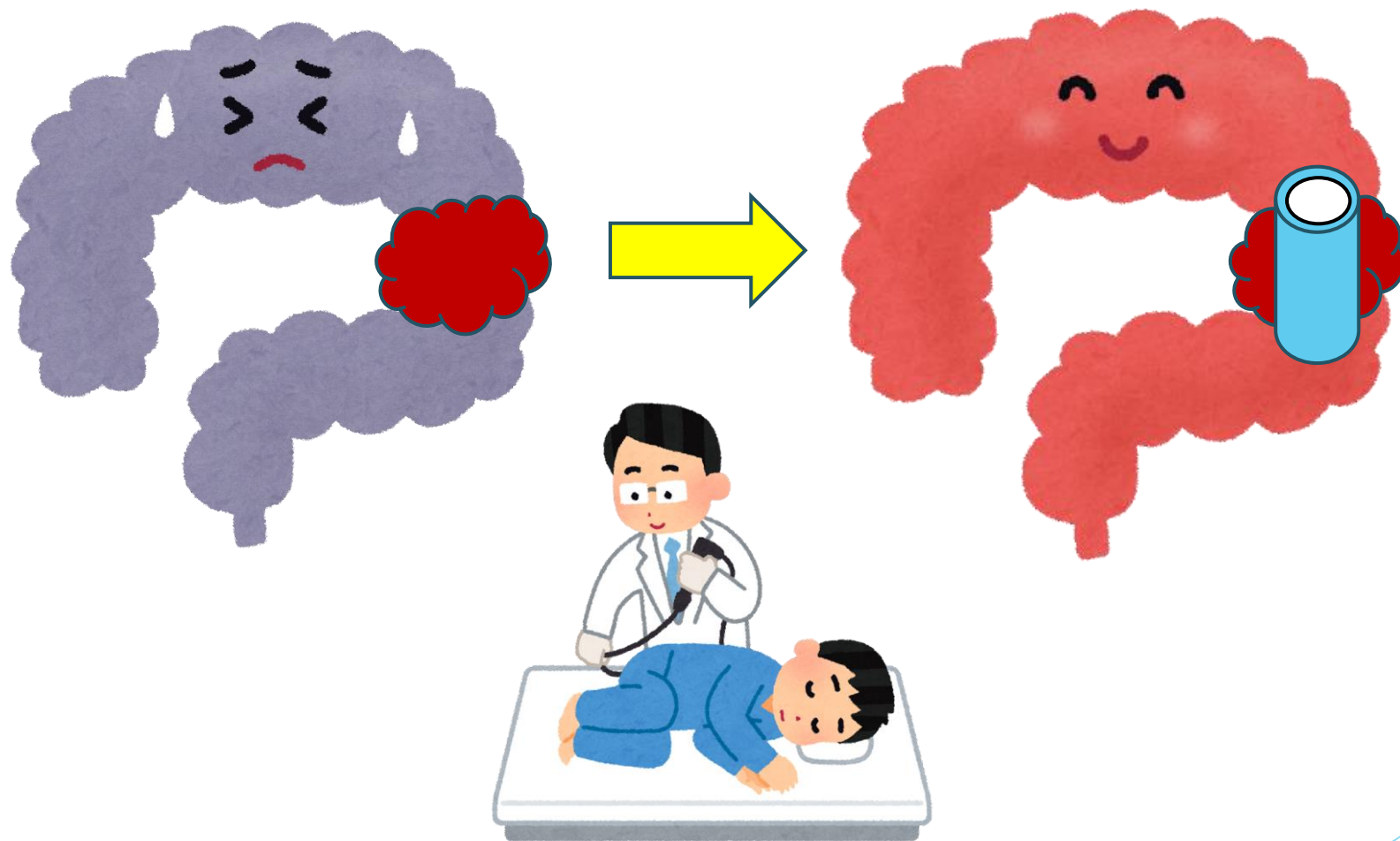
★ 抗がん剤 + 手術

★ 放射線 + 抗がん剤 ± 手術

など

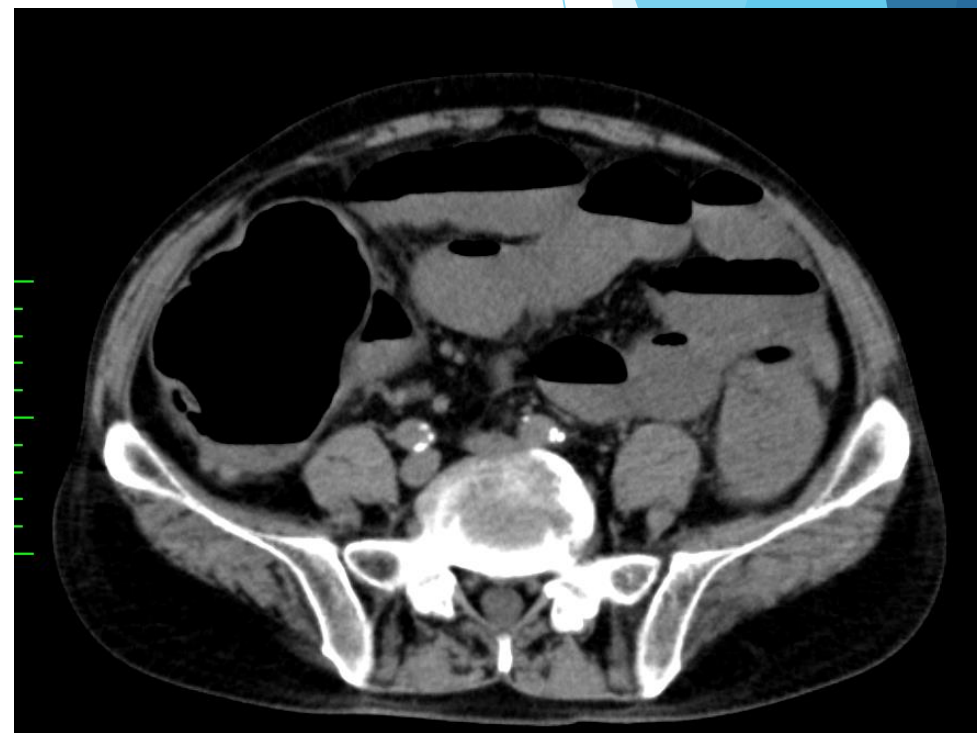
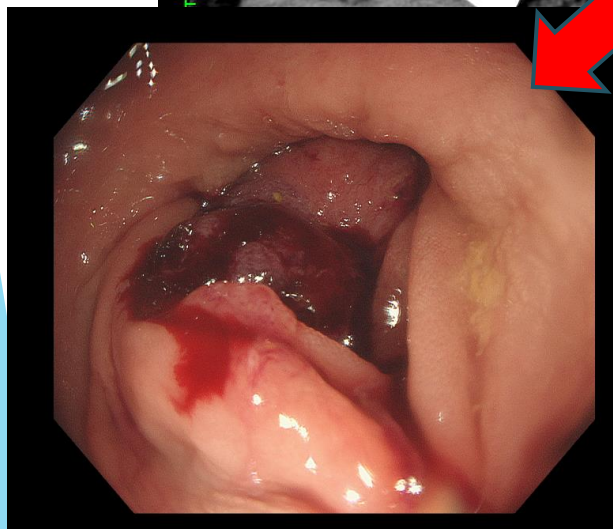
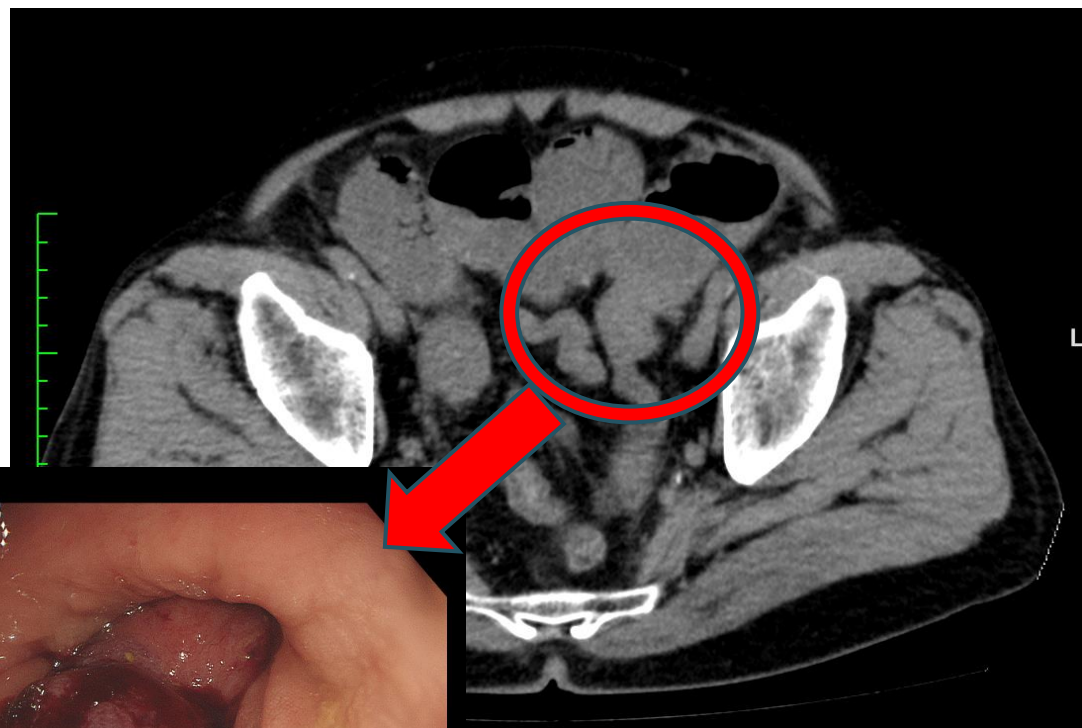
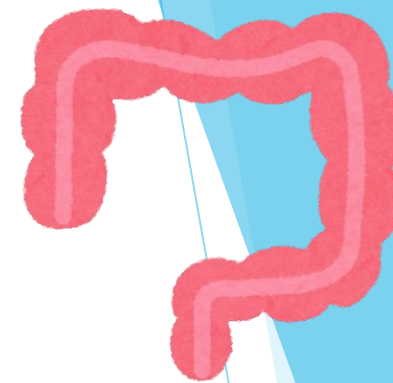
大腸癌に対する集学的治療

内視鏡(大腸カメラ) + 手術



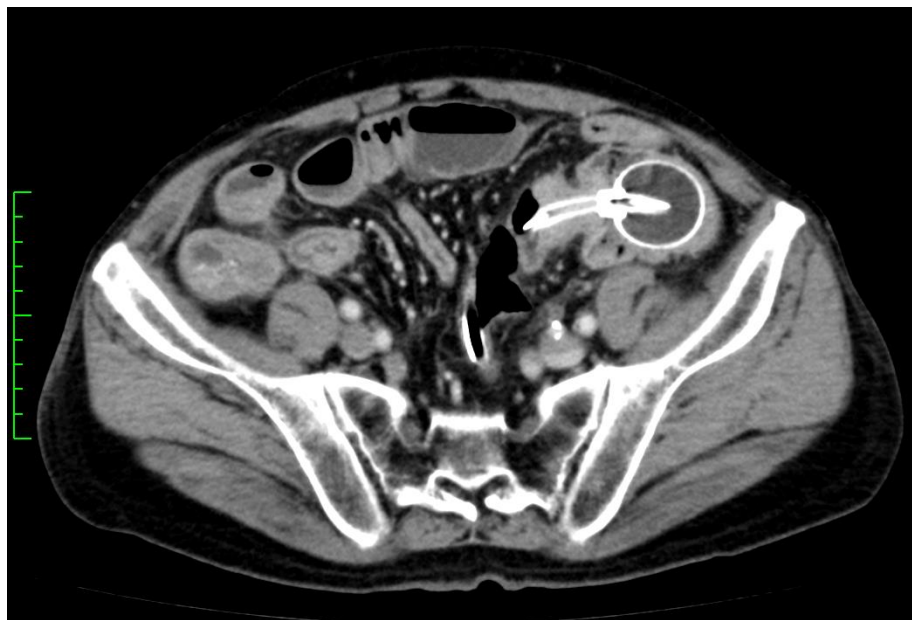
大腸癌に対する集学的治療

内視鏡(大腸カメラ) + 手術

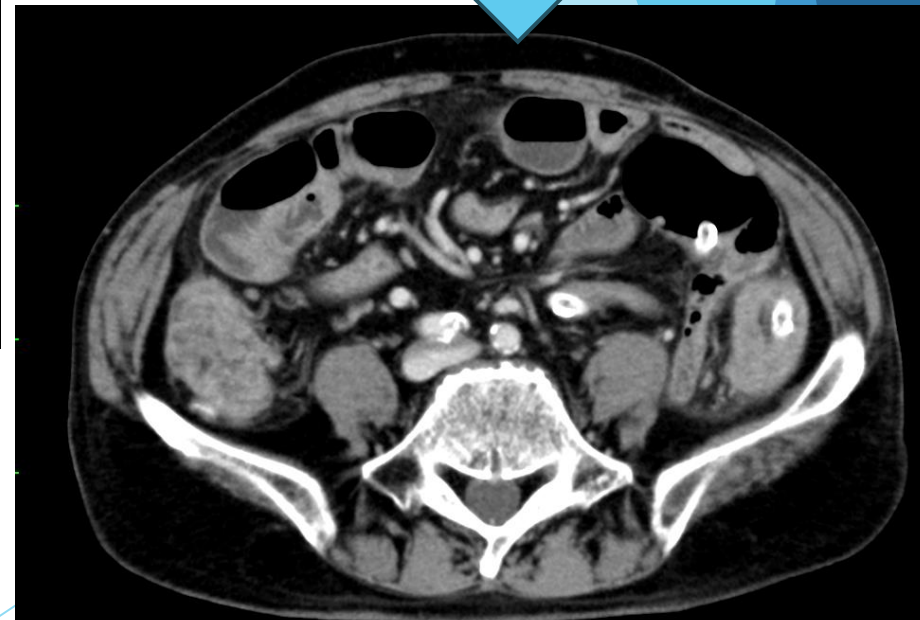
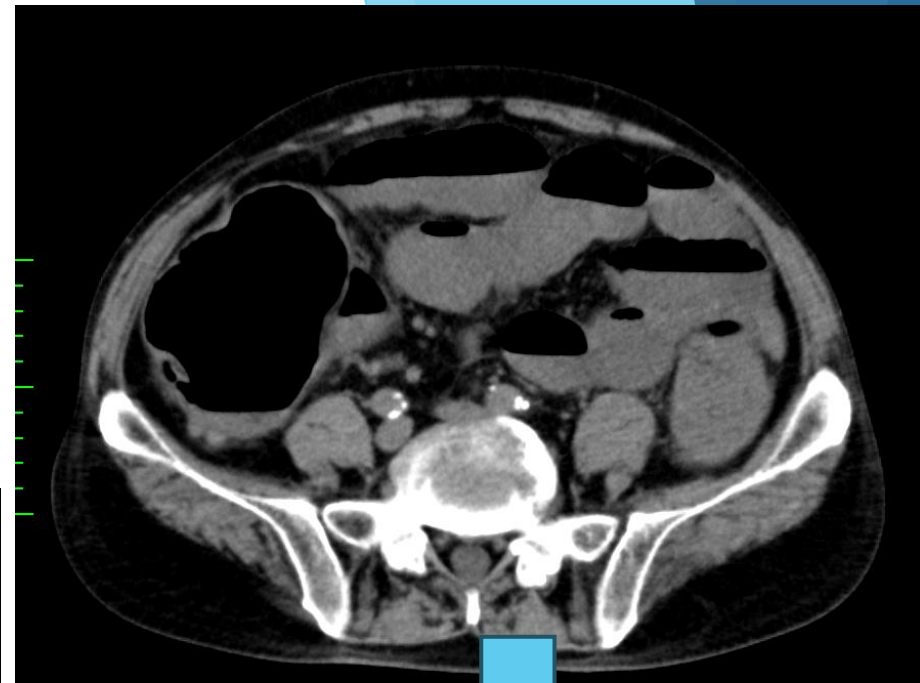


大腸癌に対する集学的治療

内視鏡(大腸カメラ) + 手術



経肛門イレウス管

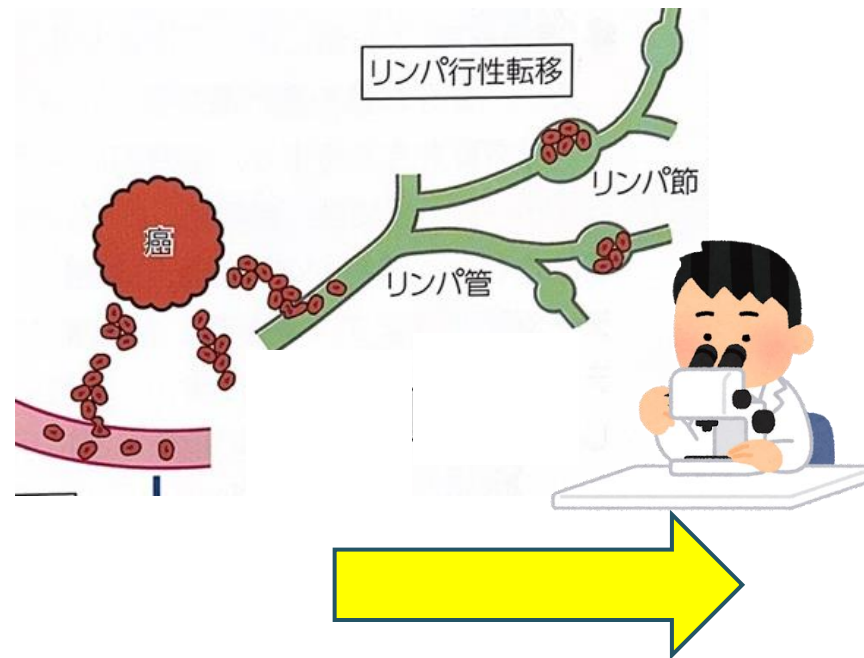


大腸癌に対する集学的治療

3~6ヶ月間

手術 + 抗がん剤

術後補助化学療法



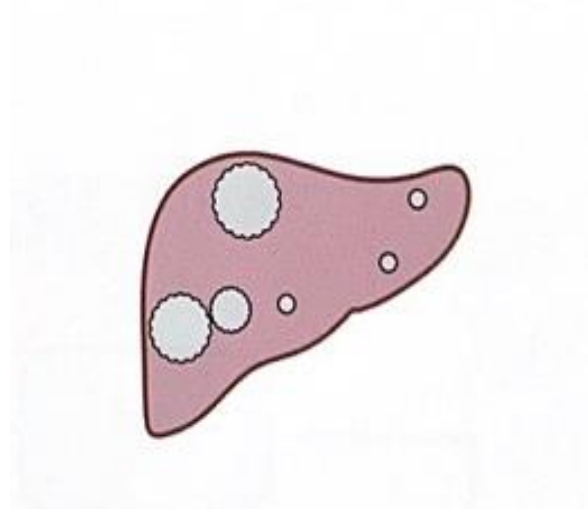
ステージⅢ

or

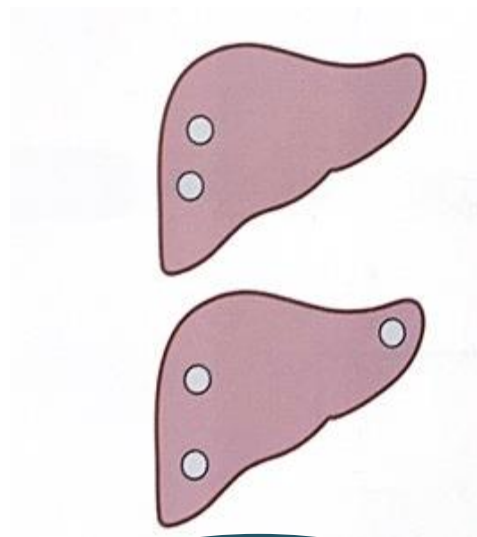
再発リスクの高いステージⅡ

大腸癌に対する集学的治療

抗がん剤 + 手術



切除できない



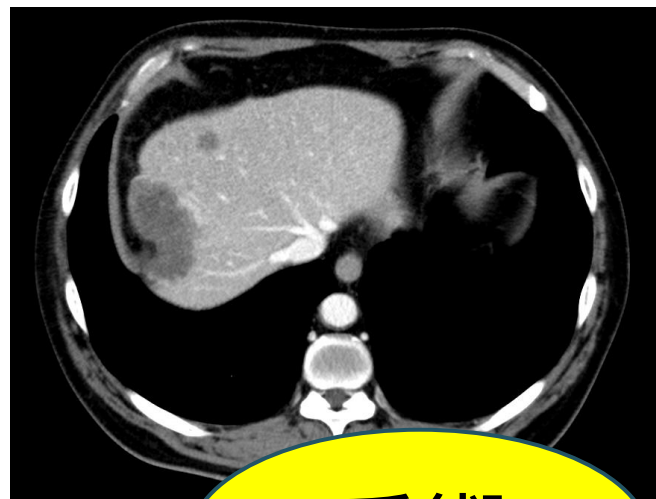
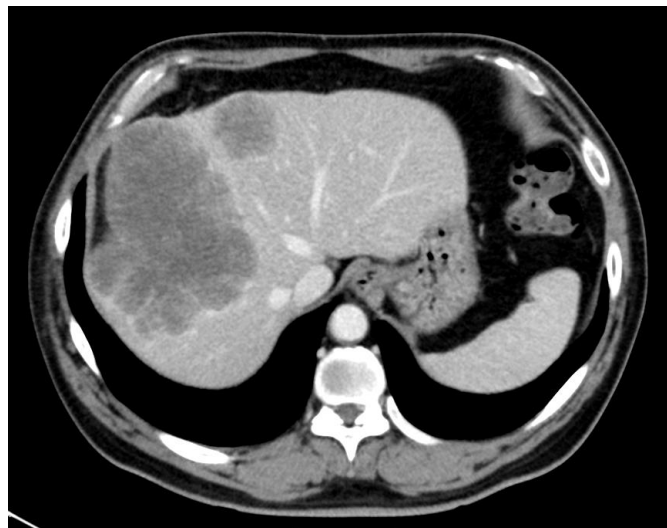
切除できる



画像に映らない微小な転移を制御する目的で行うこともある

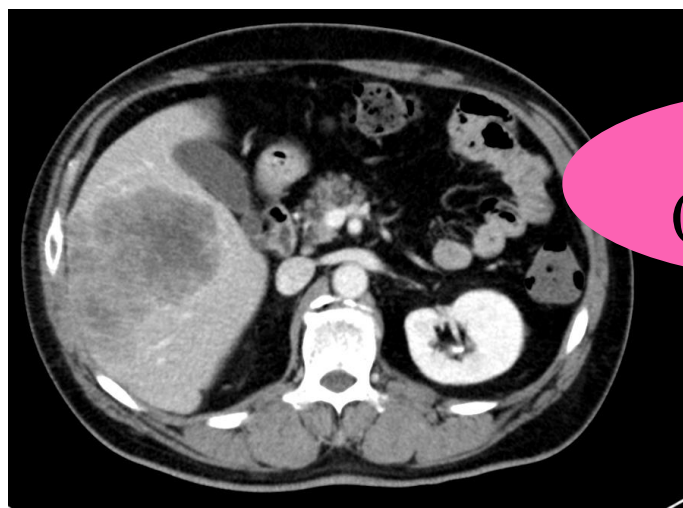
大腸癌に対する集学的治療

抗がん剤 + 手術

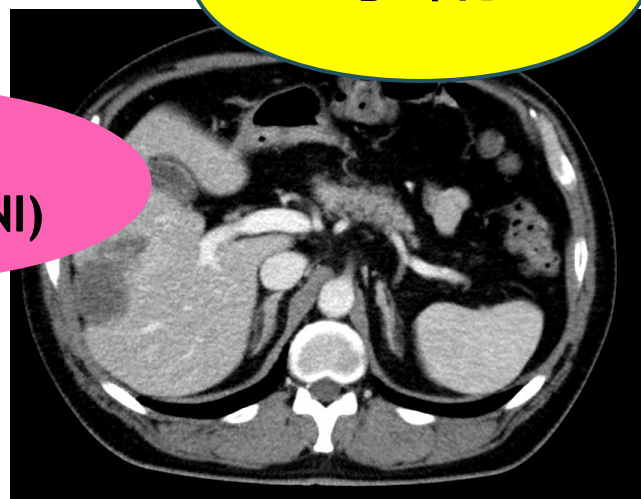


手術

再発なし

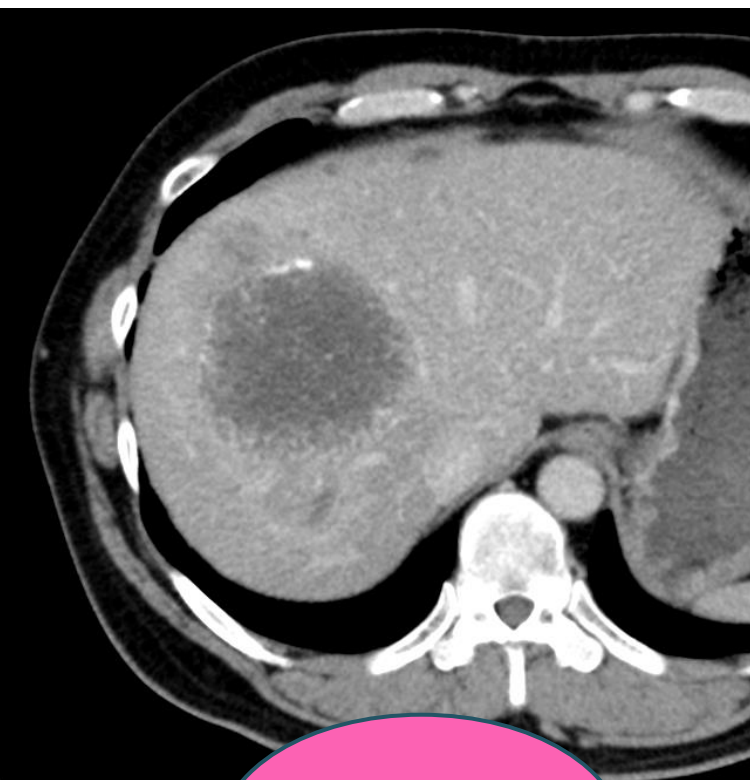


抗がん剤
(FOLFOX+PANI)

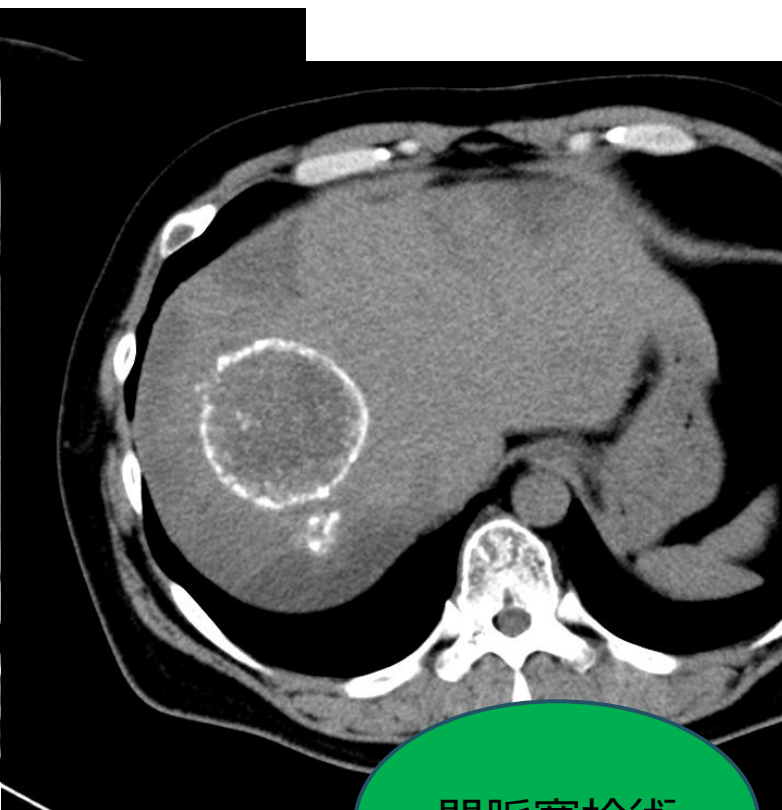


大腸癌に対する集学的治療

抗がん剤 + IVR + 手術



抗がん剤



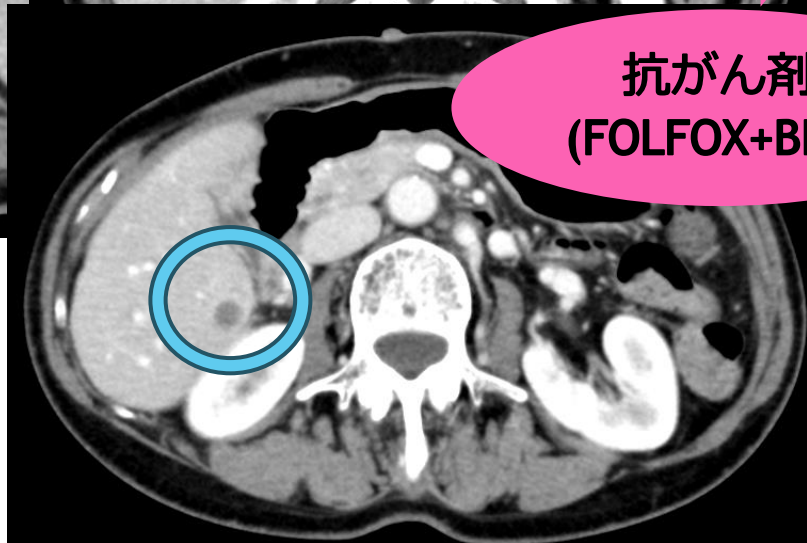
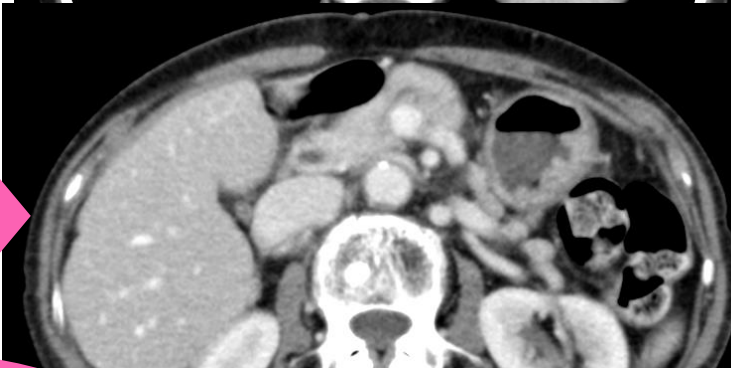
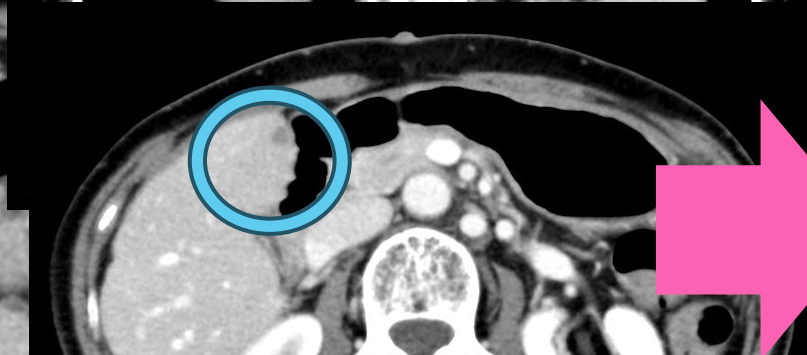
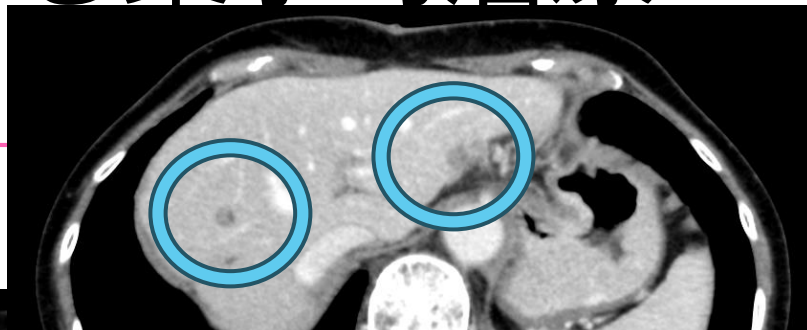
門脈塞栓術



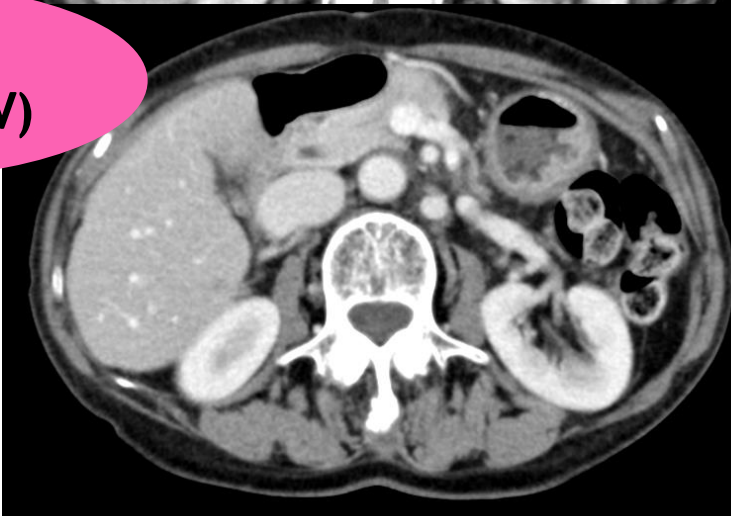
手術

大腸癌に対する集学的治療

抗がん剤 +



抗がん剤
(FOLFOX+BEV)



大腸癌に対する集学的治療

抗がん剤 + 手術

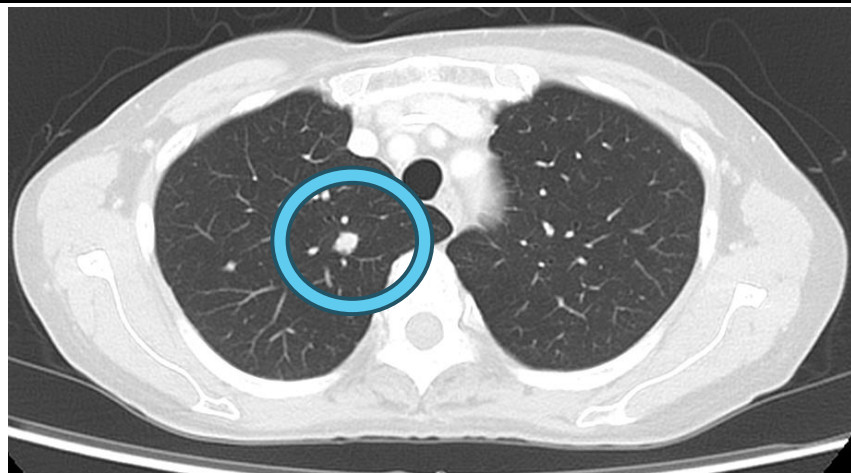


抗がん剤



肝転移・肺転移
とともに切除

術後約3年 再発なし

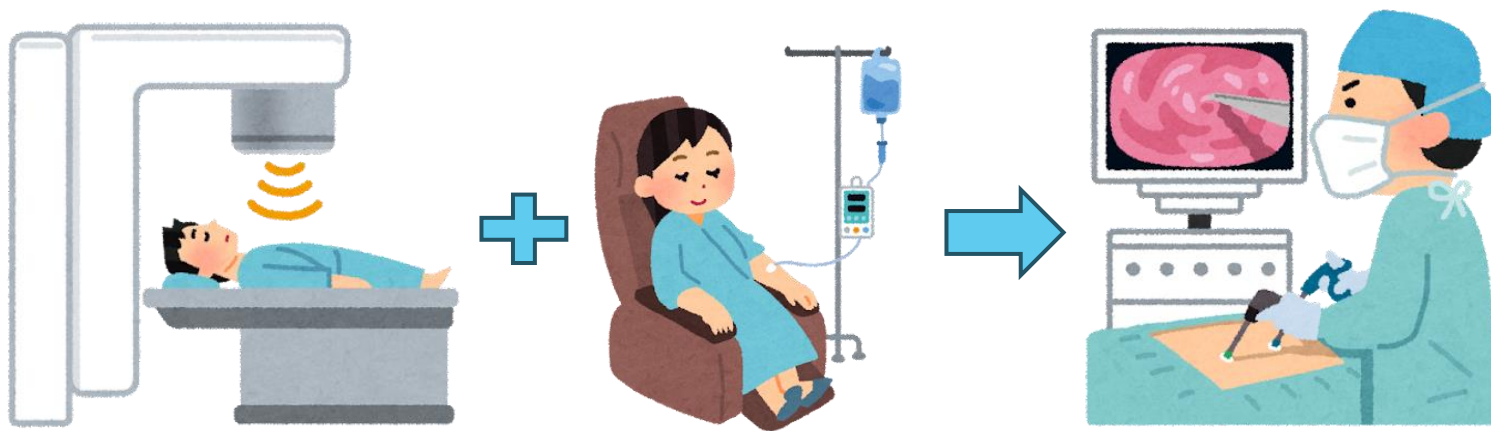


大腸癌に対する集学的治療

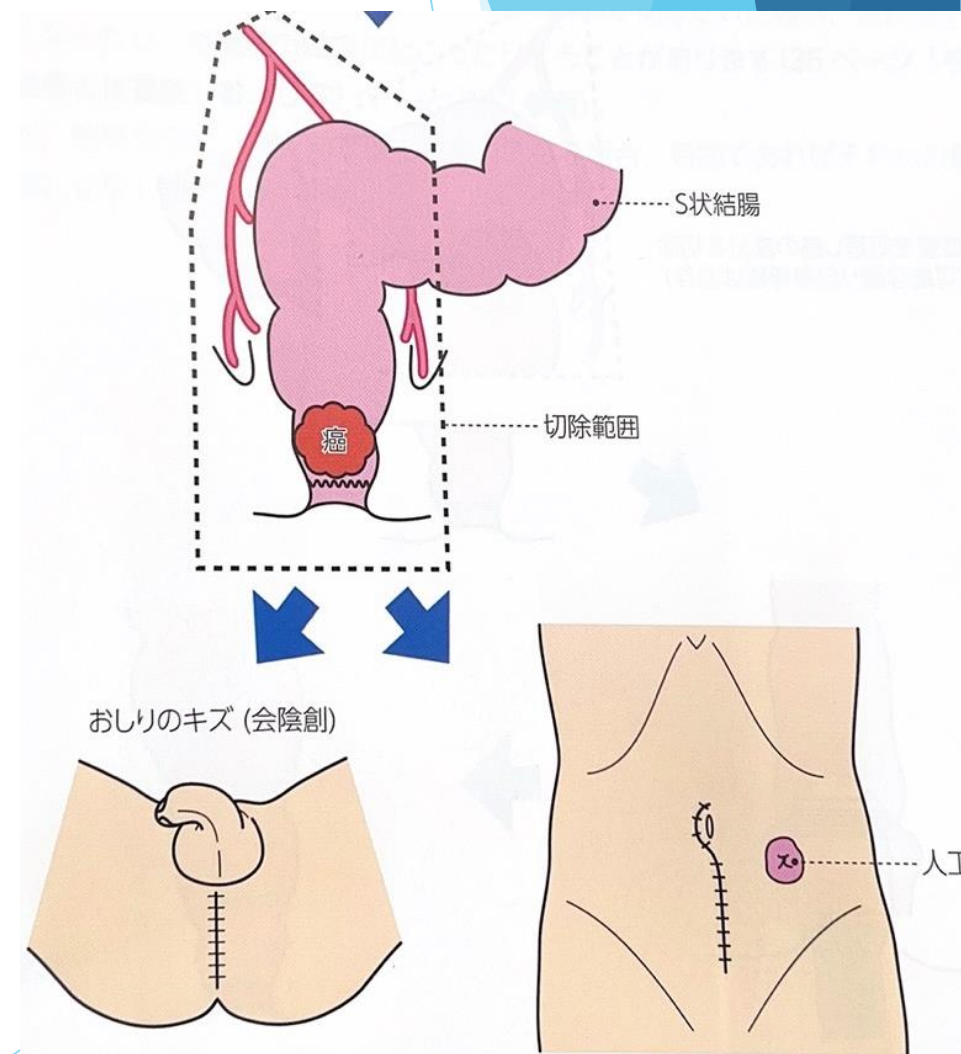
試験的な治療

放射線 + 抗がん剤 ± 手術
(抗がん剤 + 放射線 ± 手術)

Total Neoadjuvant Therapy (TNT)



16-28%で癌が消失？！



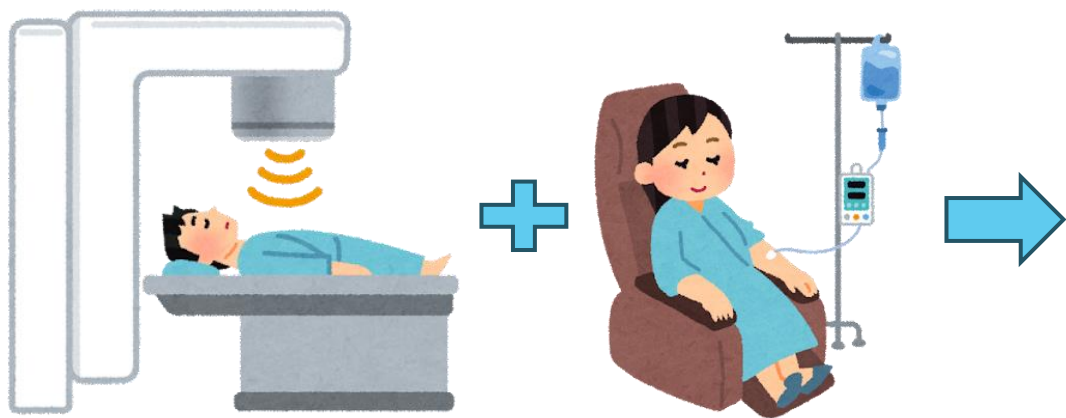
大腸癌に対する集学的治療

試験的な治療

放射線 + 抗がん剤 ± 手術
(抗がん剤 + 放射線 ± 手術)

Total Neoadjuvant Therapy (TNT)

定期的な経過観察



16-28%で癌が消失？！



大腸癌5年生存率

神奈川がんセンターの5年生存率（2012-2016年症例）

	結腸がん		直腸がん	
	当科	日本全国*	当科	日本全国*
StageI	91.5%	92.3%	96.6%	90.6%
StageII	87.2%	85.4%	85.6%	83.1%
StageIIIa**	86.0%	80.4%	86.0%	73.0%
StageIIIb**	68.0%	63.8%	56.3%	53.5%
StageIV	29.1%	19.9%	30.0%	14.8%

*2000～2004年における日本全国データ（大腸癌研究会より）

**Stage分類は「大腸癌取り扱い規約」第6版に準じます（最新のStage分類とは異なります）

集学的治療

内視鏡
(大腸カメラ)

手術

抗がん剤

放射線

- ・ 治療成績の向上
- ・ 臓器温存や身体的負担の軽減
- ・ 治療が複雑化
→セカンドオピニオンなどの活用